



まめまき



令和 6 年 2 月の園だより



すいこう認定こども園

節分とは、もともと季節の変わり目で立春・立夏・立秋・立冬の前日のことを言います。暦の上では、春から新しい年が始まったため、いつの頃からか立春の前日だけが節分となり、春への折り返しとして3日ごろに行われています。神社や寺では、面を付けた鬼に向かって豆をまいて退散させる追儺（ついな）や年男たちが豆をまくところもあります。豆には、穀物の霊が宿っていると考えられていたからです。

鰯の頭を家の入り口に刺したり、柗（ひいらぎ）の木の枝を刺したりするのは、鬼は鰯が嫌いなので逃げていくため。柗は、枝にとげがあるので鬼が恐れているからだと言われています。

参照：
なるほど行事ブック



♪おには そと～ 笑顔 うち～
おには そと～ 笑顔 うち～♪

毎日が忙しく、時間に追われていると、ついついイライラしたり、怒ったり…。そんな自分が嫌だなんて思うこと、ありませんか？ 今日という日は「今日」しかないから…。どうせ同じ一日を過ごすなら、「楽しかったな～♪」と思う一日にしてみませんか？

全国私立保育園連盟
子育てメッセージ



誰かのために…

新しい年明けとともに大きな災害、事故の報道があり、浮かれ気分は一転してしまいました。1月の園だよりなどは、早々に配信できるよう設定しておりましたので、1か月を過ぎましたが、遅ればせながら被害を受けられた皆様に心よりお悔やみを申しあげるとともに、一日も早い復興と避難をされている方々が安心して過ごせる日が来ることを願っております。

お正月の間は、各テレビ局で倒壊した建物から行方不明の方を探している様子や、燃え上がる飛行機から乗客が避難する様子などが報道されました。北陸の地震で救援にあっている方々の中には、自分の家族も被災され、辛い思いをされている方もおられることでしょう。また、今にも倒壊しそうな建物に入って救助活動をするのは、不安や恐ろしさがあることでしょう。そういう思いを持ちながらも、救助を待っている誰かのために全力を尽くされていることに頭が下がる思いです。

み仏様の教えの中に「布施奉仕」という言葉があります。「布施」とは、見返りを求めないで、他人に与えること、「奉仕」とは、社会や他人のために尽くすことです。他人に親切にすることは、まわりまわって自分に返ってきます。そういう利害を抜きにして、どんな時でも小さな親切、見えない誰かのために行うことがどれだけ尊いことなのか、子どもたちに伝えたいと思います。すいこうの子どもたちは、転んで泣いているお友だちに涙をふくティッシュを持ってきてあげたり、先生を呼んでくれたりする姿をよく見ます。その光景はどこかの園でもあることですが、決して褒めてもらおうなどと言った見返りを求めて行っていることではなく、純粋に泣いている友だちへの思いから体が自然に動いているのでしょう。そして、今までに自分が泣いている時、悲しい気持ちの時などに友だちに優しくしてもらった経験があると、小さな子どもでも目の前に困っている友だちがいたら、



自分にできる範囲で何とかしたいという行動に出るのだと思います。年少さんの発表会で、不安で泣いているお友だちの手をぎゅっと握ってあげるKちゃんの姿がありました。まさに布施の心です。また、給食のお手伝いをしている年長さんは、人参や糸こんにゃくを切りながら、「人参は、苦手な子が多いから、小さく切ってあげようね」とか、「糸こんにゃくは長いから短くしないと赤ちゃんがのどにひっかけるよ」などと、側にはいない誰かのことを思ってお手伝いをしてくれます。年長さんのその優しさが、園全体に広がり、苦手な人参を食べようとしていたり、年長さんみたいになりたいと憧れる子どもが増えたりして、良い循環になっており、まさに見返りを求めない「布施奉仕」の心が育まれているのだと思います。

地震と同じ日に発生した JAL の旅客機と海上保安庁機の衝突事故でも客室乗務員の方々の適切な判断があったと報道されました。日ごろの訓練に真剣に取り組み、お互いの信頼関係があったからこそ落ち着いた判断ができ、乗客を無事に避難させることができたのだと思います。この度の地震のように広島にもいつ大きな地震、災害が起こるかわかりません。その時の備え、訓練はもちろんですが、「布施奉仕」の心を忘れず、今できることに適切に対応していきたいと思います。JAL の機長は、全員が脱出したあと、残された人はいないか、一つひとつシートを確認して、最後に脱出されたそうです。私もそういうリーダーでありたいと思いました。

先月は3歳児さんの発表会があり、今月は4.5歳児さんの発表会があります。3歳児さんは、いつもと変わらず、元気いっぱい、笑顔いっぱい、みんな自分が中心だと言わんばかりに楽しく披露してくれました。4.5歳児さんは、緊張しながらも保護者の皆さんに見ていただくことをとても楽しみに取り組んでいます。一人ひとりの子どもたちの最高のパフォーマンスと笑顔に大きな拍手をお願いいたします。

園長 上原玲子

お釈迦様の話
～三尺三寸箸～



地獄と極楽の食事の様子を描いたお話です。地獄も極楽も大きなテーブルを挟んで人々が座り、テーブルの上には豪華な食事が山盛りになっていますが、地獄の人々はがりがりに痩せています。食事をしている様子を見ると、三尺三寸（約1m）ほどある箸でごちそうをつまんでも自分の口に入れることができず、イライラして怒り出し、争いさえも始まる始末で、食事どころではありません。極楽も同じように三尺三寸もあるお箸がおいてありますが、極楽の人々は、ふくよかで肌もつやつやです。食事が始まると、極楽の人々は、ごちそうをつまんで「どうぞ」と自分の反対側の人に食べさせてあげていました。にっこり微笑む相手は「ありがとう。今度はおかえしますね。あなたは何か好きですか」と食べさせてあげていました。同じ食事風景ですが、俺が俺がと先を争い、傷つけあう地獄の人々、反対に相手を思いやり、相手からも思いやられ、感謝しながらお互いに食事を楽しむ極楽の人々。

どちらが幸せかは明らかです。「自分さえよければ」では幸せになれません。いつも相手のこと、誰かのことを思って過ごしていきたいものです。

